Weekly・Monthly
体験学習ガイド　NO.26（4/29）

新元号『令和』記念号

『人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ。梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせる国でありますように。』4月1日新しい元号が『令和（れいわ）』と発表されました。典拠は奈良時代に完成した日本に現存する最古の歌集『万葉集』。日本で記された国書に由来する元号は確認できる限り初めてだそうです。

天平二年の正月の十三日に、師老の宅に萃まりて、宴会を申ぶ。
時に、**初春の令月にして、気淑く風和ぐ。梅は鏡前の粉を披く、蘭は珮後の香を薫す。**しかのみにあらず、曙の嶺に雲移り、松は羅を掛けて蓋を傾く、夕の岫に霧結び、鳥は穀に封ぢらえて林に迷ふ。庭には新蝶舞ひ、空には故雁帰る。
ここに、天を蓋にし地を坐にし、膝を促け觴を飛ばす。言を一室の裏に忘れ、衿を煙霞の外に開く。淡然自ら放し快然自ら足る。
もし翰苑にあらずは、何をもちてか情を攄べム。詩に落梅の篇を紀す、古今それ何ぞ異ならむ。よろしく園梅を賦していささかに短詠を成すべし。

天平二年正月十三日、師の老の邸宅に集まって宴会をくりひろげた。
折しも、**初春の佳き月で、気は清く澄みわたり風はやわらかにそよいでいる。梅は佳人の鏡前の白粉のように咲いているし、蘭は貴人の飾り袋の香にように匂っている。**そればかりか、明け方の峰には雲が行き来して、松は雲の薄絹をまとって蓋をさしかけたようであり、夕方の山洞には霧が湧き起り、鳥は霧の帳に閉じこめられながら林に飛び交うている。庭には春生まれた蝶がひらひら舞い、空には秋来た雁が帰って行く。
そこで一同、天を屋根とし、地を座席とし、膝を近づけて盃をめぐらせる。一座の者みな恍惚として言を忘れ、雲霞の彼方に向かって、胸襟を開く。心は淡々としてただ自在、思いは快然としてただ満ち足りている。
ああ文筆によるのでなければ、どうしてこの心を述べ尽くすことができよう。漢詩にも落梅の作がある。昔も今も何の違いがあろうぞ。さあ、この園梅を題として、しばし倭の歌を詠むがよい。

【新潮日本古典集成/萬葉集 2/P61～P62 より抜粋】

『萬葉集』は、奈良時代末期に成立した日本に現存する最古の和歌集である。天皇、貴族から下級官人、防人、大道芸人などさまざまな身分の人々が詠んだ歌 4,500 首以上も集めたもので、759 年（天平宝字 3 年）までの約 130 年間の歌が全 20 巻に分類収録されており、体裁が整った成立は 759 年以後の、780 年頃にかけてとみられている。

□石川塾のあれこれ㉞　～遠足こぼればなし～『昭和』～『平成』～『令和』～田浦梅林

2019.1.20どの木よりも先に開花する梅の前で

石川塾の遠足で定番のコースに**田浦梅林**を経由するコースがある。田浦梅林は小さな山の麓から山頂にかけて現在は 2,000 本以上の梅が植えられ、根元には 75,000 株の水仙もあり遠足の楽しみのひとつだ。
　田浦梅林は昭和 9 年（1934）皇太子殿下（平成天皇）の御生誕を記念して、山の所有者である石川金蔵さんを中心とした地元の人たちによって梅林組合がつくられ、700 本の梅を植樹したことに始まる。　面積は約 6000 平方メートルあり、三浦半島でただひとつの梅林として知られている。
　もうすぐ平成から令和へ時代が変わるが、覚えておきたい平成の象徴のひとつである。**（平成 31 年 4 月 23 日夜記す）**